

平成23年 区民のつどい開催報告

平成23年7月2日（土）神奈川公会堂にて「区民のつどい」が開催されました。
当日の様様をご紹介します。

14:00開会し、代表委員挨拶、区長挨拶、来賓・顧問紹介に続き、第1部が始まりました。第1部は「まちづくり 心が
かよう 地域の輪」と題し、1年間の各部会の活動状況の紹介を
しました。区民協議会は一期2年となっており、今年度はその
1年目となりますので、活動の中間地点となります。現在どのよ
うな問題点があるのか、どのように取り組んでいるのか、次年度
のまとめに向けてどのような方向性を追求していくのか等を各
部会長が発表しました。

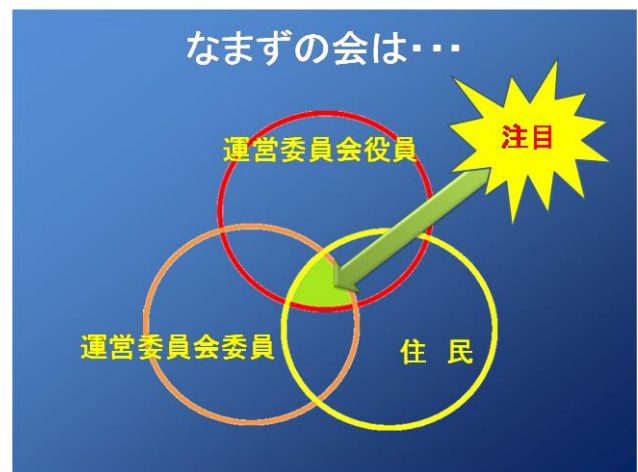


各部会の一番力を入れている部分をダイジェストでご紹介いたします。

《なまずの会》

アンケートから見える課題

- ・現在の備蓄内容で良いのか？
- ・運営委員会委員の選出の仕方は？
- ・いざという時に役に立つ防災訓練とは？
- ・図上訓練はしなくても大丈夫なのか？
- ・設置場所、住民割り振りは的確といえるのか？



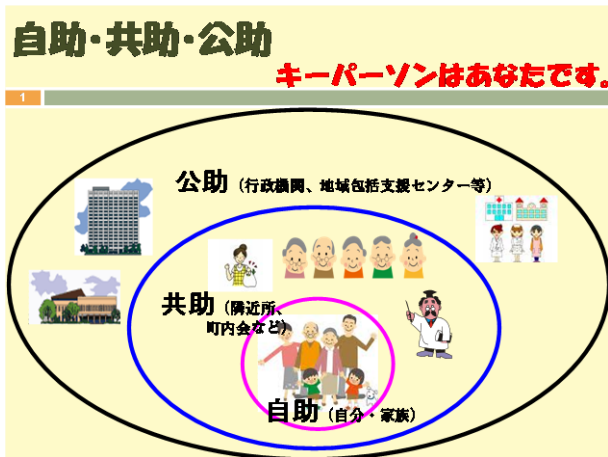
なまずの会は地域防災拠点について調査検討をしています。地域防災拠点の現状や問題点を把握するために、神奈川区に22ある地域防災拠点の運営委員長様方に15項目からなるアンケートにご協力いただきました。区民のつどいでは、その中から一部の結果を皆様にご報告しました。

現在の備蓄内容に満足していない拠点が85%、問題点があるという拠点が90%など、興味深い結果となっています。これらのアンケートから拠点の課題が見えてきました。

なまずの会は地域防災拠点の運営委員長や副委員長などの役員、一般委員、そして拠点に関わっ

ていない地域住民の三者によって構成されています。地域防災拠点運営側の意見だけでなく利用する住民の目線も重要です。この三者の重なるの部分に注目し、アンケートから見えてきた課題も含め、いざという時に役に立つ拠点の在り方について検討を重ねていきます。

《スケットかながわ》



「スケットかながわ」は、身体の不自由な方や高齢者などの日常時の不安に焦点を当て、緊急事態にどの様に対応できるかを考えています。今後、要援護者などにアンケート調査を行い、解決策を関係方面へ提言していこうと思っています。

その際、「自助、共助、公助」について考える必要があります。「自助」は自分のことは自分であるということ、極めて重要なことです。一方限界もあります。そこで要援護者が緊急事態を乗り越えるためには、隣近所などの支援による「共助」があり、最後に社会全体による「公助」があると考えています。私たちはこの点の議論を深めていきます。

なお、障がい者と支援可能者との連携、つまり自助と共助とが上手く結びついた例の一つとして、聴覚障がい者自身が作った防災スカーフを紹介しました。

《ポーターの会》

現地調査で見つけた問題点

- 近くに避難場所があるのに、現状では遠くが指定されている。
- 区外への避難に、距離表示がない。
- 表示板が見にくい。
- 避難場所が「～一帯」と表示されているが、距離と場所があいまいである。
- 平常時から、地域防災拠点に案内表示がされていない。



私達の神奈川区は鶴見区、港北区、緑区、保土ヶ谷区、西区の5つの区に隣接しています。186ある自治会、町内会の内、実に30以上の自治会、町内会が他区と隣接し、今や区境に於ける諸問題は決して見過ごすことの出来ないテーマとなっています。

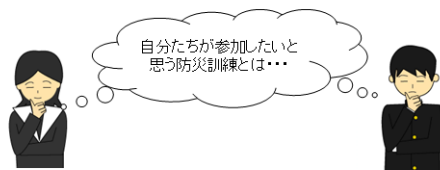
今期の研究テーマを「区境に於ける避難場所、防犯、学区について」と定め、まず「区境に於ける広域避難場所」について調査、検討を実施し、日頃は気付かなかった区境に於ける諸問題（近くに他区の避難場所があるのに現状は遠くが指定されている、避難場所が「～一帯」と表示されているが距離と場所が不明瞭である、区外への避難に距離表示がない、表示板が見にくい場所にある等）が抽出されたことは非常に有意義でありました。

これからも地域住民の目線に立って、区境に於ける諸問題の解決に努めていきます。

《つながろう会》

調査のポイントは...

中高生である自分たちが、自分たちの参加したくなる行事を考えてもらう。

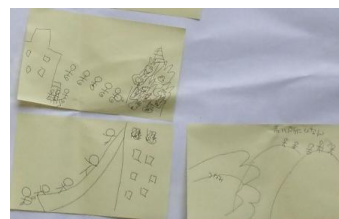


中高生の関心を知り、中高生を集めるのはどのようにしたらよいのか？につなげていく

中高生が参加しやすい防災訓練とは？

面白そう、やってみたい、と人気が高かった**体験型の訓練**。

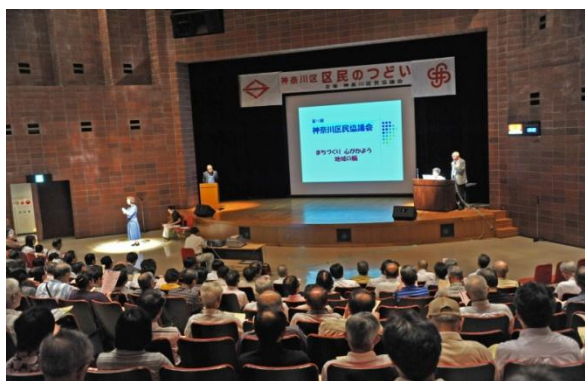
- ケムリ
- 放水
- 脱出シュート
- 消火器
- AED
- 炊き出し



何には絵を描いて表現してくれた子ども。

つながろう会は、地域の人材発掘（町内会役員のなり手探し）と、中高生を地域につなげるしくみづくりをテーマに活動しています。

第16期の前半は、中高生の関心を探るため、中高生自らに、自分たちの参加したくなる防災訓練を考えてもらおうという調査が中心となりました。中高生の意見で人気が高かったのは、体験型の訓練（ケムリ、放水、脱出シュート、消火器、AED、炊き出し等）でした。一方、体験するだけでなく自分のスキルとして身につくもの、被災した人の話を聞く、防災訓練を自分たちで企画する、震災の際に役に立つ訓練をしたい等、前向きな意見も出て心強い限りでした。話し合いを通じて、中高生は、マニュアルに沿って与えられたことを集団でこなすのではなく、自分自身を自己主張できる場に喜びを感じる様子や、他校との交流による刺激を求める様子が見られました。



各部会の活動紹介は、舞台中央に大きなスクリーンを出し、プロジェクターで図などがおおきく映し出されました。また、手話通訳もつきました。

各部会活動紹介の後、活発な質疑応答がなされました。

休憩をはさみ、第2部の開始です。第2部は「歌でつづる神奈川の思い出」と題し、神奈川区の歴史を歌に絡めて紹介しました。



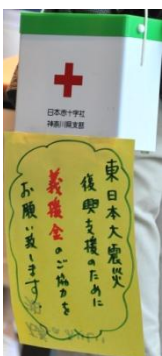
横浜開港資料館主任調査研究員の平野正裕氏にご講演いただき、横浜の歴史と歌についてご紹介いただきました。日本人伝統の歌の世界、神奈川の古民謡、レコード産業の発展と新民謡、廃墟のまちに流れた歌、横浜市歌の由来等の講話の中で懐かしい歌が流れたり、一部の歌をコーロ・エトワールの皆さんが合唱したりしました。

続いて、青木小学校のよこはま AOKI ジュニアコーラスの皆さんが、「横浜市歌」を始め「ハローシャイニングブルー」、「ぼくらは仲間」等6曲を披露してくれました。

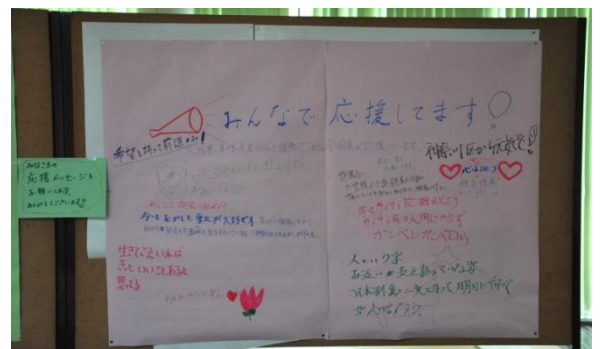


17:00過ぎに閉会となりました。ホールの外では、ホワイエに神奈川区の歴史と今回の震災に関する展示をしました。また、被災地の皆様へ贈るために寄せ書きと義援金も募りました。閉会后、ご来場の皆様には苗の配布をいたしました。

皆様の笑顔の中、区民のつどいは無事終了しました。



たくさんの応援メッセージをいただきました。
33,665 円の義援金が集まりました。日本赤十字社を通して被災地に送られます。
皆様のご協力に御礼申し上げます。



● ～区民のつどいでは、ご来場の皆様に意見票を配布させていただきました。ご提出いただいた皆様に御礼申し上げます。いただいたご意見から一部を抜粋させていただきます。～ ●

区民のつどい意見票抜粋

- ・地域でのつどいの充実が必要であると認識した。
- ・区民協議会が前進しているということを強く感じました。
- ・従来はまずテーマが無く、参加するのも町内会の推薦で無関心で参加し十分な議論もできず結論もでない場合が多かったが、今回のように取り組めば成果もでるんだと感心した。まとめまで頑張ってください。
- ・今回は大変実のある区民のつどいでした。各部会報告もわかりやすくて良かったです。来年を楽しみにしています。
- ・防災拠点を多面的に考え直す時で、今日のような発表を地域に出張発表していただければ区民の総合的なまちづくりへの関心も高まるのではないかと思う。区民協議会委員の関心度、努力、熱心さには敬意を表したいです。
- ・とても活動の内容が進化していてびっくりしました。身近なテーマをわかりやすく取り上げて、勉強になりました。
- ・テーマを決めて人を募集したのが良かった。皆さん真剣に取り組んでられるのが強く感じられた。
- ・中間報告の時点で問題がすでに把握されているのは立派。
- ・発表の内容から真面目に取り組んでいる様子が良くわかる。短期間で課題が良く整理されている。検討結果を期待する。地域の活動にいかしたい。会場の雰囲気も非常に良かった。
- ・名前は違ってやっていることが冷静に考えると防災関係だけ？ なまずの会は仕方ないとしても、他の3部会は、その名前から考えると、もっと別の切り口もあるだろうと思う。
- ・高齢者には3時間はきつい。
- ・今日の内容はどれも素晴らしかった。それだけに時間が長くかかりすぎ残念。あれもこれもと詰め込みすぎたのではないか。二部はどちらか一つで良かったのではないか。
- ・来年も来ます。ぜひ一部を長くして、成果発表をじっくり聞かせてください。
- ・区民協議会とは何か、わからない区民が多数です。もっとPRしてください。

この他にも貴重なご意見をたくさんいただきました。来年度の開催に向け、参考にさせていただきます。

